

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務マニュアルをすべての職員に配布。年1回、5つの花びらの研修を通じ、共有、実践を行っている。	法人の理念とホーム独自の理念を玄関、事務所に掲げ、年度始めには施設全体で研修を行い職員全員で共有している。五つの花びらに込められたホームの方針を職員の一人ひとりが理解し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入。年間を通じた、保育園、小学校との交流を計画的にしている。散歩やスーパーへの買い物、図書館への外出等により、交流を図っている。	自治会に加入し、地区に協力費を納めている。回覧板で地域の情報も収集している。市社会福祉協議会より紹介されたボランティアの来訪も継続的にあり、利用者もとても楽しみにしている。保育園の運動会の参加や小学生の来訪もあり、中学生の職場体験を受け入れなど、子供達と交流を続けている。日常的に買い物や散歩に出掛け地域の人々と挨拶を交わしたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のケアマネージャーや市内で介護されているご家族の来訪や電話相談などは都度対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は、ご家族、安心相談員2名を加え毎回積極的意見交換を行い、指摘事項については、職員に周知活かしている。	参加メンバーは家族、区長、民生委員、市高齢者福祉課職員、介護相談員(2名)で、偶数月の第三木曜日に開催している。ホームの活動状況の報告や事故報告等を行い、意見や助言をいただくなど、双方向的な会議となっている。出された意見は全職員で共有し具体的に活かせるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場を通じ取り組んでいる。また、事故発生時の報告を速やかに行かない、情報の共有や再発防止に向けた協力関係を築いている。	事故発生時の報告を始め、些細な事でも報告や相談をし協力関係を築いている。介護保険更新時の認定調査の際には調査員にホームでの様子を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会の設置や定期研修を通じ周知している。玄関は、自動開閉ができない構造であるため、職員が付き添い玄関の出入りしている。	法人内には各種委員会があり年2回の内部研修を実施し、外部研修にも代表者が参加し伝達研修も行い、全職員が身体拘束を正しく理解できるようにしている。利用者の生命や安全の確保等の理由で、やむを得ない場合に限り、家族の同意を得て、センサーマットを使用している。経過を記録し随時検討を重ね、早期解除に向けて取り組みを行っている。	

八幡グループホームみのり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の委員会と年1回の研修を実施している。入居前の自宅調査、事故報告書の早期提出により、早期対応、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時支援している。また、管理者は研修参加を通じ成年後見制度の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入居前面談により、十分な説明を行い、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設けている。また、研修や日頃の面会時にあった希望や要望を日々のミーティング等で確認し、反映している。	毎年、9月の収穫祭に合わせて家族会が開催されている。個人差はあるが家族の面会も頻回にあり、その都度意見や要望を聴いている。意見箱の設置はあるが、投函は無いという。来訪時に出された家族の意見・要望は全体で共有し運営に反映できるよう前向きに検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	棟会議、リーダー会議、拠点長会議、幹部参加によるライフサポート会議など提案を聞き業務に反映させている。毎月ユニット会議、リーダー会議を実施し、職員の意見反映に努めている。	毎日、朝、夕の申し送りを兼ねミーティングを実施し、また、毎月、全職員が参加する棟会議(ユニット)で意見や提案を聞く機会を設けている。管理者や棟(ユニット)リーダー、介護リーダーなどによる会議を開催し職員の意見をホームの運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフは、自己評価後、1次評価者、2次評価者と面談を行う。また、キャリアパスにより各々がレベルに応じたスキルアップが出来るような環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画に応じ、毎月社内研修を実施。日常の業務やケア会議を通じたOJTを実施。キャリアパス計画に沿ってレベル等に応じた社外研修も参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千曲市介護保険事業所連絡会 施設部会参加		

八幡グループホームみのり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を必ず行い、ニーズ把握 意向の確認を行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族面談を行い、認知症発症前からの情報を収集し、家族の意向や要望の確認を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前より、相談受付を行い、適切な施設紹介や在宅ケアマネージャーとの連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る能力を活かせるケアプランを立案し、家事活動の参加、献立作成などを通じ関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前面談、更新時面談等により、家族の役割を確認しながら、支援の方針を担当者会議や面会時に確認しながら関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や近所などの面会があり、積極的に受け入れている。外出、外泊の積極的推進を行なっている。また、近隣の方、友人の面会もある。	家族の面会頻度は多く、他の利用者にも気軽に声を掛けられる間柄となっている。家族同士も馴染みの関係になり、新たな人間関係が構築されている。ホームの方針として積極的な外泊を勧めており、「今できること」を精一杯応援している。畑をやるために外泊する方、墓参りに出掛ける方、近くの温泉に家族と出掛け泊まってくる方などもあるという。ホーム利用後も友人や家族との関係が途切れないような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、洗濯畳、ボタン付けなど出来る人が出来ない人をサポートしたり、職員は関係を築きやすい座席に工夫するなど配慮している。		

八幡グループホームみのり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ関係機関と連携をとりながら、継続した支援が出来るよう、情報の提供をおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式シートを活用し、利用者の生活歴の把握を行い、本人本位の希望や意向の把握に努め、支援に反映させている。	日々のケアの中から汲み取り、利用者の言葉にしやすい部分等はセンター方式を取り入れ生活歴等を把握し、本人・家族の希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記同様		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	なじみの生活に近づけるような過ごし方をアセスメントしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを毎月行い、棟会議、ケア会議、担当者会議を通じ計画作成に反映させている。	あえて担当制はとらず、棟(ユニット)職員全体で利用者の支援をしている。計画作成担当者は毎月、月末から月始めにかけてモニタリングを行い、介護リーダー、介護職員の順に評価を書き込み、担当者会議に臨んでいる。体調面等で計画の変更が必要な場合には本人や家族にも意見を聞き見直しを行い、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活支援シート 介護記録 モニタリングを個別に記録し、毎日の引継ぎや棟会議に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	検討を重ねながら、出来る体制の中で柔軟な支援を行っている。		

八幡グループホームみのり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は回覧板等により、把握し、参加できる活動は柔軟に参加できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、ご家族へ説明を行い、入所後のかかりつけ医、医療機関を選択していただけるよう配慮している。協力医による往診を月1回受け、適切な医療が受けられるよう支援している。関連施設から毎日看護師が来訪。	契約時に本人、家族の希望を聞いている。ホーム協力医による月に一度の往診があり、他科の受診が必要な場合は家族に付き添いをお願いするなどしている。法人内の看護師が毎日来訪しており、インシュリン注射や爪切り、相談業務等を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の常駐は現在はない。系列施設からの応援体制。介護記録の確認や、看護連絡ノートなどを活用。また、電話での調整を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院カンファレンスへの参加を行い、情報交換や関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	関連施設からの看護師の応援体制があるが、24時間対応はしていない。そのため、現段階では看取り体制が整っておらず検討中。予測不可能な事態が起きた場合には病院ケースワーカー、担当医、ケアマネ等を含め合同カンファレンスにて検討している。	契約時や担当者会議等で早い段階から折に触れ説明をしている。家族や医療関係者等と連携を図りながらチームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回応急処置や事故対応、感染症対策の研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を地域住民も含め行っている。防災協定について、検討中であり、見守りを含めた協力、施設を避難所として開放する等現在も運営推進会議の場を通じ議論している。	年2回、利用者と共に火災想定避難訓練を行っている。昼と夜を想定したり、通報、避難誘導、消火の各訓練を消防署の立会いの下行っている。また、ホームの災害対策に地域住民の理解を深めていただき連携体制を整えている。	

八幡グループホームみのり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の覚書を交わしている。研修を年1回行っている。また、自尊心を傷つけないような言葉を選んだり、本人の世界観を大切にケアの方法を考え実践している。	職員と個人情報に関する誓約書を取り交わし、周知徹底している。研修会等で使用される書類はインシヤル等で個人が特定できない配慮がされており、使用後はシュレッター処理をし、適切に管理されている。毎年研修会を行いプライバシーについて正しく理解できるように取り組んでいる。利用者には名前に「さん」をつけ呼びかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動の選択や出来る活動の参加など本人の意思を尊重した働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、就寝時間、入浴時間、など本人の意思を尊重している。衣類の選択やする活動、したい活動など本人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容ではパーマーやカラーを楽しんだり、化粧やおしゃれを通じ自分を表現していただけるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食一緒に行っている。利用者の好みを献立に盛り込んでいる。行事食等も提供する中で食事準備や片付けを楽しみながら行っている。飲食用の水は水素水を使用。また、オリゴ糖や雑穀も提供し、便秘予防に努めている。	買い出しから調理、片付け等の一連を利用者の力量に合わせて一緒に行っている。利用者の好みを献立に加えたり、行事食を取り入れたりしながら食事を楽しむことができるように工夫している。飲食用の水は水素水を使用し、オリゴ糖や雑穀米も取り入れ、なるべく薬に頼らない工夫をし便秘予防に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェックを行いながら、薬に依存しない対策を検討し、トータル水分量を把握し、盛り付け量なども個別に定めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施。個別に仕上げ磨きを支援し、予防歯科にも力を入れている。また、訪問歯科検診なども実施し、助言を受けている。		

八幡グループホームみのり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援シート、温度版を活用し、オムツの使用量、一人一人のパターンを把握。個別の排泄マニュアルを作成。これまでの習慣も含め、排泄の自立や使用枚数削減に努めている。	各種シートを活用し一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々のマニュアルを作成し自立に向けた支援を行っている。状態に応じた排泄用品を検討し削減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ストレッチ体操、豆乳、オリゴ糖など、自然の力を活かし、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人湯を入れ替え、温泉の入浴剤を選択、リンゴ湯、ゆず湯など季節に合わせた湯を提供し、好評をいただいている。曜日や時間帯はケアプランにより、位置付けているが、気分や体調を把握し、柔軟に対応している。	週2回の入浴がケアプランに位置づけられており確実に実行されている。その日の体調や気分によって時間や曜日を変更し、柔軟に対応している。入浴を拒む利用者はいるが理由が分かっており、職員間で情報共有し対応している。また、個々のマニュアルを作成し、一人ひとりに合わせた多様なニーズに合わせている。体格の大きな方や重介護の方でも湯船に浸かっていただけるように浴槽にリフトを設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	音楽をかけたり、なじみのぬいぐるみを置いたり、寄り添ったり、好みの室温に調整するなど支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容一覧を全職員が常時見れる場所に置き、変更時には情報を速やかに差し替える。また、服薬は2名セットでチェックを行い服薬ミスを防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式シートを活用し、把握している。また、なじみの道具の持参や趣味活動を行い支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事をイベント委員がコーディネートする。季節ごとの外出レク、日々の散歩や買い物等の外出、また、家族との外食なども取り入れ支援を行っている。	日常的に散歩や買い物に出掛け、短時間でも戸外に出る機会を作り、気分転換をしている。花見、紅葉狩り、菊花展見学等の外出レクはイベント委員会で計画され五感刺激の機会としている。家族との外出や外食等、「今出来ること」を積極的に支援している。状態に応じて行き先の変更や福祉用具を使用し、可能な限り外出をしている。	

八幡グループホームみのり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状では金銭の預かりはしていないが、希望により、金銭預かりや買い物同行する仕組みがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、希望時支援し、支援している。暑中見舞いや年賀状作成も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の光や温かさ、風を感じて頂けるようにし、かつ、空調も調整を行っている。台所なども利用者さんも入れる十分なスペースを確保し、家具なども家庭的な雰囲気の物を用いている。畳の間を新たに設け、居心地の良い空間となっている。	壁に利用者が作成した作品等を飾り季節感や生活感を取り入れている。自然光の入るリビングは、明るく、暖かな日差しが差しこみ、利用者と職員はこの場所で一日の殆どを過ごしている。畳の小上がりが設置され落ち着いてくつろげるスペースが増え、足を伸ばしてくつろげる場所ができたことで下肢の浮腫が軽減された利用者もいるという。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食堂の席を配慮したり、本人の意向を聞きながら希望を取り入れた支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたなじみの家具や調度品が思い思いに持ち込まれている。家具や布団はなじみの物を持参していただいている。	本人や家族と相談しながら家での生活と差がないよう使い慣れ家具や好みの洋服、布団等を持ち込んでいただき、その人らしい居室作りに心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式を用い、出来る事、出来る可能性のある事を個別に把握し職員は出来る事までやりすぎないような環境を整えている。		